



京都市都市計画 マスタープラン

概要版

KYOTO
CITY PLANNING MASTER PLAN



令和3年9月
京都市

はじめに

逆境の中で「創造」を見出し、 魅力と活力あふれる持続可能なまちへ！



「創造とは、逆境の中でこそ見出されるもの」。

ある著名な建築家は、そんな言葉を残しています。

この言葉のとおり京都の先人たちは、襲いかかる幾重もの危機に知恵と力を結集させ、逆境を乗り越えてきました。今再び、歴史に学び、課題に真正面から立ち向かい、必ずや市民の皆様とともに京都の明るい未来を創造する。そんな強い決意の下、本市の都市づくりの基本方針である「都市計画マスタープラン」を、10年ぶりに見直しました。

この間、私たちは豊かな自然や歴史的な町並み景観など、先人たちから受け継いできた大切な“財産”を市民ぐるみで守り育て、磨きをかけ、新たな価値を創造してきました。その結果、京都の魅力や都市格は飛躍的に向上し、国内外から高い評価をいただいているところです。

一方、人口減少社会が本格的に到来する中、未来を担う若者・子育て層の市外流出、自然災害の頻発など、このまちの将来を脅かす事態が発生。さらに、未曾有のコロナ危機に加え、収支不均衡の構造が長く続いてきたことによる本市の財政危機にも直面しています。

これからも京都が魅力と活力あふれるまちであり続けるためには、まずは都市の発展と活力の維持に大きな影響を与える人口減少に歯止めをかける。そのうえで、京都が誇る歴史や文化を大切に守りながら、暮らしの豊かさや経済の活性化にもつなげていかなければなりません。

今回の見直しでは、京都の都市特性を踏まえたこれまでのまちづくりを基に、京都ならではの魅力と都市の活力の好循環を生み出す。その道筋を描いています。

ウィズコロナ・ポストコロナ社会を見据えた、新たな時代に対応した「職住共存・職住近接」のまち、近隣都市と一体となった「京都都市圏」の強化…。これらの新たな視点をもって、あらゆる危機に粘り強くしなやかに対応してまいります。

そして、本プランの下、市民の皆様をはじめ多くの方々の参加と協働による“挑戦と改革”で、この逆境を乗り越え、共に持続可能で明るい京都の未来を創造していく。「京都に住んでよかった」、「京都で暮らしたい、学びたい、働きたい、子育てしたい、訪れたい」と心から実感いただける。そんな笑顔あふれる京都のまちを実現してまいります決意です。

結びに、本プランの見直しに多大なお力添えを賜った「京都市都市計画審議会」及び「都市計画マスタープラン部会」の委員の皆様、パブリックコメントなどを通じ貴重な御意見や御提案をお寄せいただいた全ての皆様に、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

都市計画マスタープランの概要

社会経済動向

京都市基本計画

京都市持続可能な
都市構築プラン

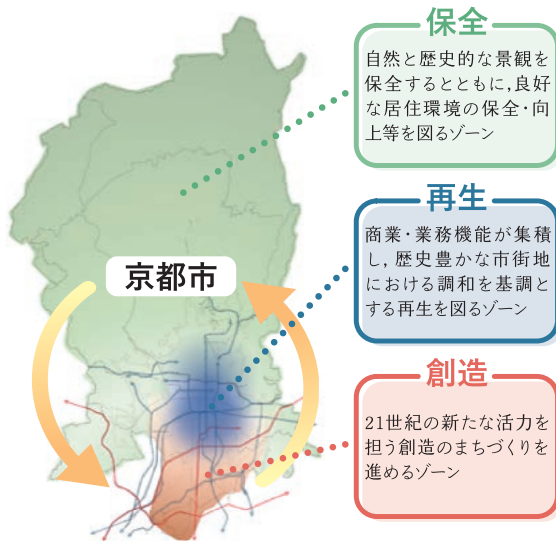
時代の潮流

〔SDGs, レジリエンス, まち・ひと・しごと・こころ京都創生, 〕
〔真のワーク・ライフ・バランス, 脱炭素社会, Society5.0 〕

「ウィズコロナ・ポストコロナ社会」への展望

京都ならではの可能性の追求
都市格の向上・魅力の発信

京都の都市特性を踏まえた「持続可能な都市構造」の実現



「保全ゾーン」は歴史都市・京都が未来に受け継ぐ魅力の源泉, 「創造ゾーン」は新たな価値を創造する都市であるための都市活力の伸びしろであり, 「再生ゾーン」は保全ゾーンと創造ゾーンの要素を兼ね備えています。

これらを踏まえ, 「保全・再生ゾーン」における京都ならではの魅力と, 「創造・再生ゾーン」で生み出す都市活力を循環させることにより, 多様な地域の拠点の活性化や働く場の確保などを実現し, 地理的制約への対応と市域全体の持続性を確保していきます。

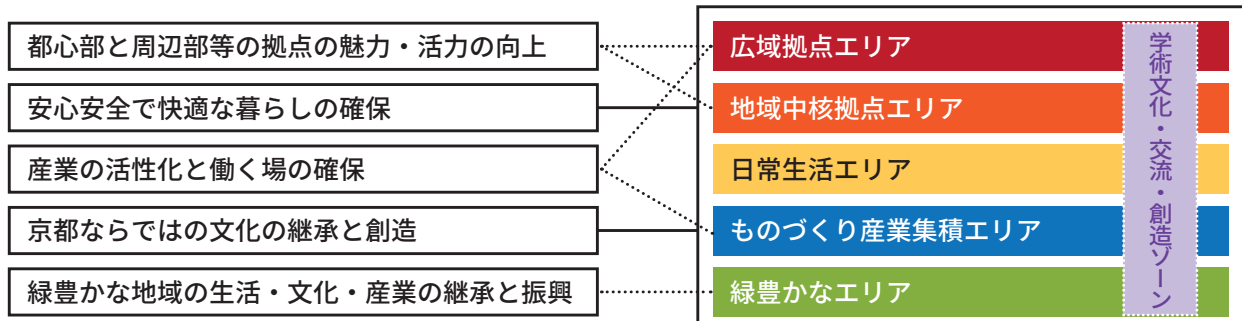
■住まい方・働き方の将来イメージ



新たな視点

- ① 新たな時代の「職住共存・職住近接」の形成
- ② 近隣都市との一体性や相互の効果を踏まえた都市圏の強化
- ③ これからの「暮らしと営み」に対応したまちづくりの推進

持続可能な都市構築プランの5つのエリア



より即地的・総合的に策定

《北部・都心部・東部・南部・西部》

○各方面の都市全体における位置付け

○方面ごとの将来像

※近隣都市との関係性も考慮

【都市計画マスタープランの構成】

拡充

第1章 都市計画マスタープランの前提

P1

第2章 都市の動向

P2

第3章 全体構想～将来の都市構造～

P3～P8

都市計画に関する基本的な考え方

戦略的な都市づくりの進め方

将来の都市構造

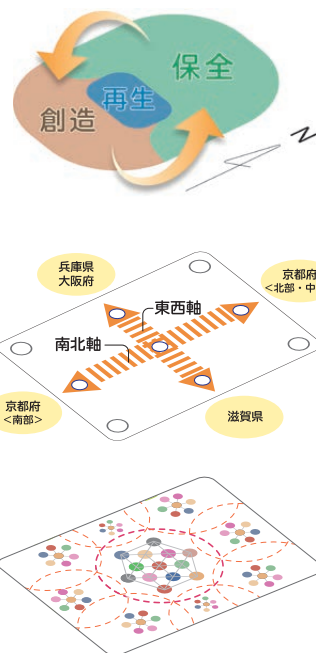
①京都市の特性を
踏まえた土地利用の展開



②都市活力の向上と
安心安全・脱炭素社会を
実現する都市構造の形成



③相互につながる
個性的な地域の形成



目標とする都市の姿

・「環境」、「経済」、「生活」、「文化」、「安心・安全」の5つの要素

「都市計画
マスタープラン」
ってなに？



京都市は今
どんな状況？

どんなまちを
目指しているの？



都市計画は
どうやって
進めていくの？

具体的に
何をやるの？



私たちが
住んでいる
ところは？

拡充

第4章 全体構想～都市計画の方針～

P9～P13

・分野別の方針や施策

- | | | | |
|-------------------|---------|---------|--------|
| 1 土地利用 | 2 歩くまち | 3 景観 | 4 防災 |
| 5 道路 | 6 公園・緑地 | 7 市街地整備 | 8 水・河川 |
| 9 その他市民の暮らしを支える施設 | | | |

拡充

第5章 方面別指針

P14～P24

- ・まちづくりの基本コンセプト
- ・主な地域の将来像・暮らしのイメージ

指針化

第6章 地域のまちづくりの推進

P25

都市計画マスタープランの前提

都市計画マスタープランの意義

都市計画の目的は、土地の利用についての制限を定め、道路や公園、緑地などを適正に配置することにより、健康で文化的な都市生活や機能的な都市活動を確保しようとするものです。

都市計画マスタープランは、住民意見を反映し、市町村の都市計画の基本的な方針を定めるものとして都市計画法第18条の2に規定されており、長期的な視点に立った都市の将来像やその実現に向けた方針を明らかにするもので、社会経済動向を踏まえながら、都市づくりを進めていくための指針です。

都市計画マスタープランの役割

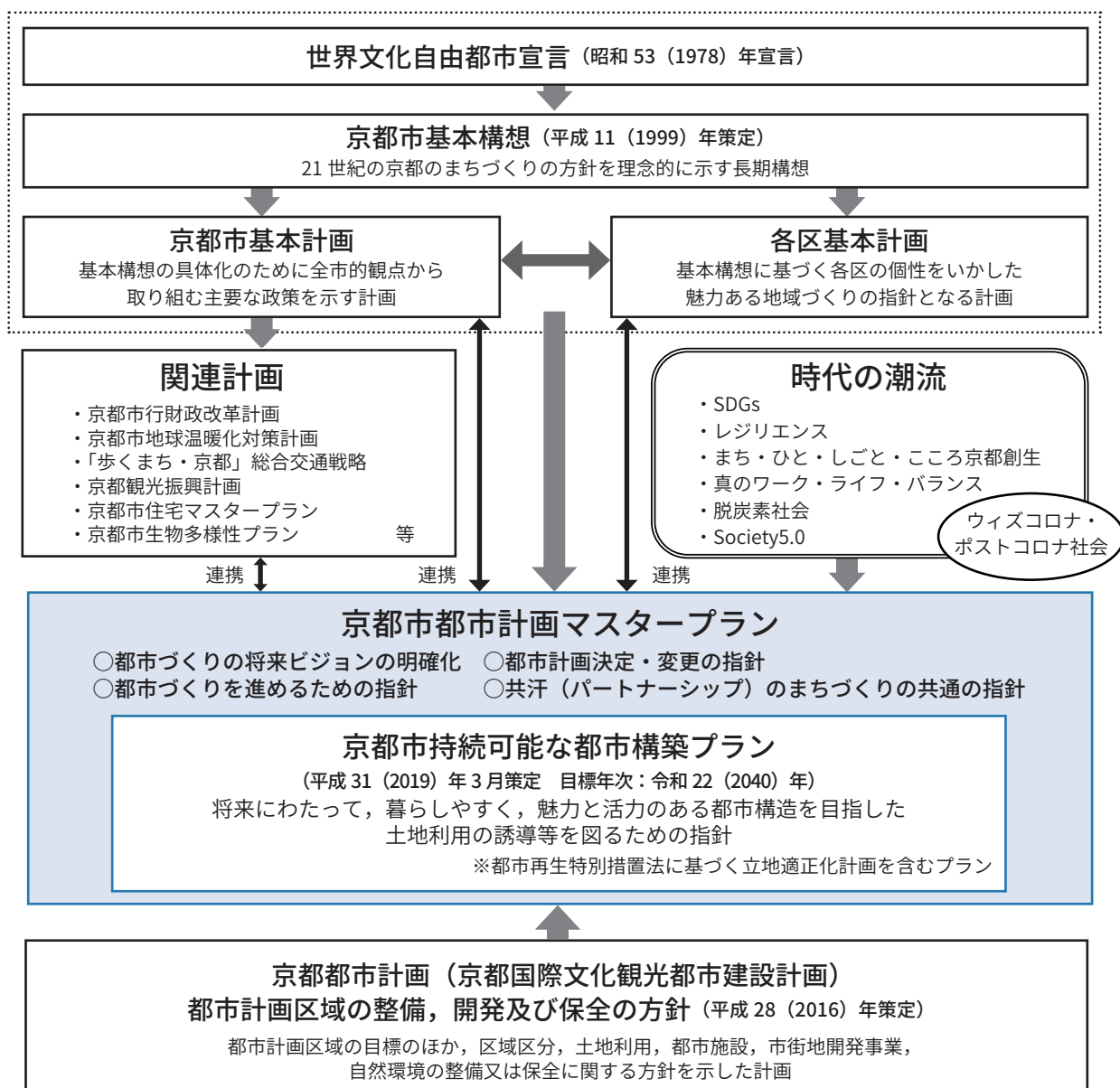
本マスタープランは、以下の4つの役割を担います。

- 都市づくりの将来ビジョンの明確化
- 都市計画決定・変更の指針
- 都市づくりを進めるための指針
- 共汗（パートナーシップ）のまちづくりの共通の指針

都市計画マスタープランの目標年次

長期的な見通しの下、上位計画である「京都市基本構想」に合わせ、令和7（2025）年とします。

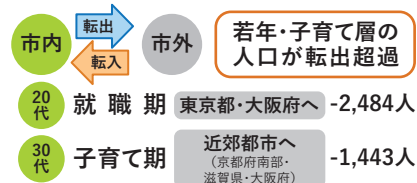
都市計画マスタープランの位置付け



人口を取り巻く現状と動向

- ・ 今後、人口が減少し、高齢化が進展すると推計されています。
- ・ 都市活力の向上を図るため、昼間人口を増やすとともに、高密度でまとまりのある市街地と、東京・大阪と比べてゆとりある都市特性をいかし、これからの暮らしと営みに対応したまちづくりを進める必要があります。
- ・ 人口が急激に増加、減少しているところがあります。
- ・ 20代、30代が市外へ転出しており、若年・子育て層が住み続けられるまちづくりを進める必要があります。
- ・ 周辺部では住んでいる行政区内で働く人の割合が低く、周辺部で働く場を創出し、市域全体で都市活力を生み出す必要があります。
- ・ 非常に厳しい財政状況の下、今後の人口減少も見据え、都市全体での持続性の確保が必要です。

■ 20代、30代の社会動向



資料) 京都市「住民基本台帳（令和2年）」
※令和元年10月～令和2年9月末の年計

環境を取り巻く現状と動向

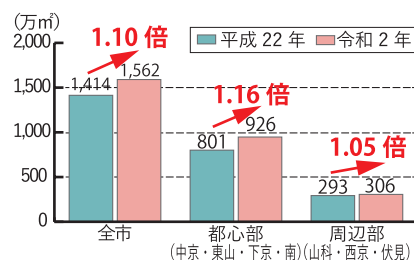
- ・ 2050年CO₂排出量正味ゼロ※1を達成する脱炭素社会や循環型社会の形成が急務となっています。
- ・ 電気自動車などの次世代自動車の更なる普及促進を行っています。
- ・ 生物多様性を支える礎である豊かな自然と都市が共存する特徴的な都市構造を有しています。
- ・ グリーンインフラ※2の導入など、市街地の緑化を図っています。
- ・ 気候変動の影響が深刻化しています。
- ・ 全体的に公共交通が発達しています。

※1：CO₂の排出量と森林などによる吸収量が均衡し、プラスマイナスでゼロになった状態
※2：自然が有する多様な機能や仕組みを活用したインフラ整備や土地利用の考え方

経済を取り巻く現状と動向

- ・ 都心部だけでなく、周辺部においても地域の拠点を中心に商業・業務機能の充実が必要です。
- ・ 市民の働く場となるオフィス空間が確保しにくい状況が続いています。
- ・ 伝統産業から先端技術産業、中小企業・地域企業から世界的な大企業が集積しています。
- ・ 多くの国際コンベンションなどが開催されています。
- ・ 多数の大学などが立地している大学のまちです。
- ・ 大学の卒業後、多くの学生が転出しています。

■ 商業・業務機能の床面積増加率



資料) 京都市「土地利用現況調査資料」

生活を取り巻く現状と動向

- ・ 10万戸以上の空き家が存在しています。
- ・ 工場や農地などの宅地への転用が続いています。
- ・ 市域全体の生活利便性の高さをいかし、徒歩圏で暮らしと営みの両方を賄えるまちづくりを進める必要があります。
- ・ 地域コミュニティにおけるつながりの希薄化や担い手不足が顕在化しています。
- ・ 西陣地域などの住と工が共存している地域では、古くからの町並みに変容したり、活力が失われたりすることが危惧されます。
- ・ 工業地域において、住と工の混在が進んでいる地域があります。

文化を取り巻く現状と動向

- ・ 京都の優れた景観を守り、育て、引き継ぐために景観政策を絶えず進化させています。
- ・ 京都のまちの歴史、文化の象徴ともいえる京町家が年々減少しています。
- ・ 多くの有形無形の文化財が存在するとともに、文化庁移転を見据えた文化を基軸としたまちづくりが進みつつあります。

安心・安全を取り巻く現状と動向

- ・ 災害による大きな被害に対するレジリエンス※3の向上が求められます。
- ・ 大規模地震が発生すると、多くの被害が想定されます。
- ・ 密集市街地が存在し、細街路が多く残っているため、火災や避難などにおける防災上の課題があります。
- ・ 既存建築物に関する事故・火災などが発生しています。

※3：様々な危機からの回復力、復元力、強靱性（しなやかな強さ）

全体構想～都市の将来像～

都市計画に関する基本的な考え方

今後の京都市においては、少子高齢化、若年・子育て層の市外転出による人口動向や厳しい財政状況を見通し、経済と都市の活性化に資する新たな魅力や空間の創造、歴史都市・京都が豊富に抱える知恵や既存ストックを最大限にいかしたクリエイティブなまちづくり、文化を基軸とした政策融合による経済的価値の創出といった「都市経営」や自治の伝統をいかした市民・事業者・行政をはじめとする多様な主体でのまちづくりの推進などが重要です。

さらに、気候危機ともいわれる状況の中、2050年CO₂排出量正味ゼロの実現に向けた、都市環境や価値観、ライフスタイル、産業構造などの抜本的な転換、長い歴史の中で培われてきた京都の都市特性や潜在力を国際社会においていかすことのほか、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた「新しい生活スタイル」への対応など、ウィズコロナ・ポストコロナ社会を見据えた取組が求められています。

そのため、都市計画の理念の実現に向けて、「都市の持続」「都市の独自性」「都市の経営」といった点を重視し、「保全・再生・創造」の都市づくりを基本としながら、市民の豊かな暮らしや営みを支え、新たな価値を創造する持続可能な都市の構築を戦略的に目指します。

また、その実現のために、京都市基本計画や行政区単位で市民と共に策定した各区基本計画、関連分野の諸計画との連携を図るとともに、国や関連する地方公共団体との広域的な調整も図っていきます。



都市の規模に関する考え方

○人口

京都市の人口は、少子高齢化や若年・子育て層の市外への転出を背景に、長期的に減少することが見込まれています。人口は、経済成長や労働力の確保など、都市の発展と活力の維持に多大な影響を与えるため、人口減少に歯止めをかけることは、京都市の未来を左右する極めて重要な課題です。

○市街化区域

人口減少が本格化し、地球温暖化が加速する中、今後は、都心部と周辺部の拠点の魅力・活力の向上を図るとともに、公共交通を軸とした地域間の連携を強化し、まとまりのある都市構造としていくことが必要です。

京都市においては、歴史・文化資源や時代の要請に応じて整備された都市施設などの様々な有形無形の蓄積がある京都固有の個性的な地域が連たんし、ネットワークする、まとまりのある市街地が既に形成されており、都市基盤についても一定整備が進んでいます。今後は、人口動向を踏まえ、市街地の規模は拡大しないことを基本としつつ、将来的に整備予定のものも含めた都市基盤を最大限に活用し、新規の基盤整備を適切に進めていきます。

○市街化調整区域

市街化調整区域では、特に人口減少と少子高齢化が進行し、農林業の後継者不足や地域の文化・コミュニティの維持が困難になるなどの状況が深刻化する課題が生じています。今後は、豊かな自然を守り、無秩序な開発を防止することを前提に、農林業や観光といった産業の振興などにより、地域の生活・文化などの維持・継承を図っていくことが必要であり、既存集落をはじめとする地域の定住人口の確保や、産業を維持し、創出するなど、地域の将来像の実現にふさわしい土地利用の誘導を図ります。

○京北地域をはじめとする都市計画区域外

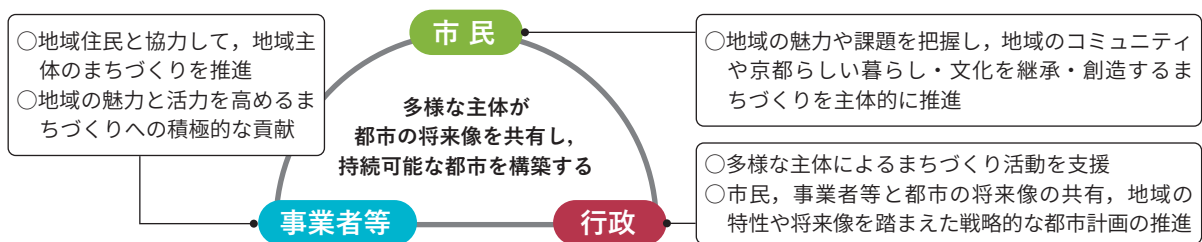
京都市域面積の約4割を占める、都市計画区域外の京北地域や花脊などの山間部においては、長い歴史に培われた文化やコミュニティなどの地域の個性や自然・歴史的資源を十分に考慮して、森林・農地や景観の保全に努めるとともに、経済基盤となる農林業や歴史・文化、森林などの豊かな自然をいかした観光・サービス業などによる雇用の確保、移住・定住促進や住みやすさの向上を図ります。

戦略的な都市づくりの進め方

京都の都市特性を踏まえた「持続可能な都市構造」の実現に向け、都市計画に関する動向のモニタリングを行いながら、以下の3つの視点の下、戦略的に都市づくりを進めていきます。

多様な主体による持続可能な都市の構築

持続可能な都市づくりを行うためには、地域の魅力や課題・将来像、また、規制誘導に関わる制度の適用や都市施設などの事業実施の必要性・効果などについて、地域に関わる市民・事業者・行政をはじめとする多様な主体で共有することが重要であり、そのうえで、より効率的に都市づくりを行うため、役割分担を行うことが必要です。



都市計画の柔軟な見直しと活用

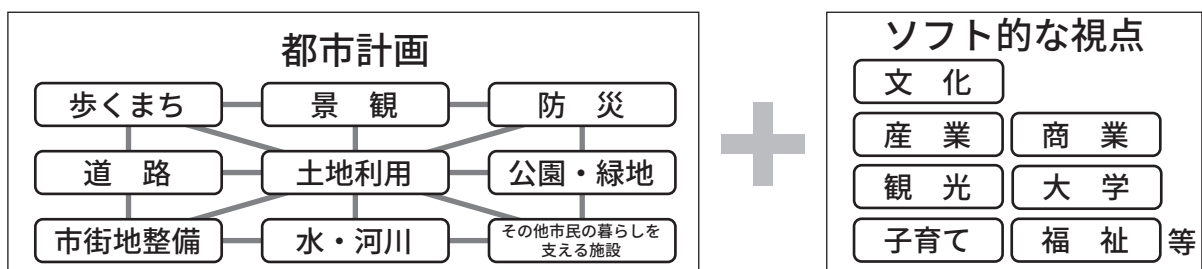
土地利用の動向や都市施設の整備状況、社会経済動向の変化などを都度点検しながら、あらゆる政策分野との融合を模索し、その時点での必要性や実現性、効率性を十分に検討のうえ、適時適切に都市計画手法などの活用を図ります。

また、多様なニーズに対応しつつ、着実にまちづくりを進めるために、全体構想や方面別指針に即した地域の将来像とまちづくりの方針を、地域のまちづくりの状況や必要性に応じ、「地域まちづくり構想」として都市計画マスタープランに順次位置付けるとともに、柔軟にその将来像やまちづくりの方針などを見直すことで、きめ細やかに対応し、そのまちづくりの実効性を高めます。

京都の特性を徹底的に活用した都市づくりの効率的な推進

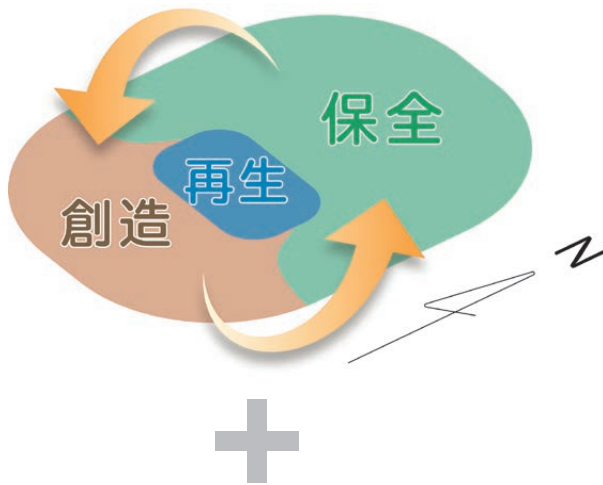
環境負荷の軽減にもつながるリサイクルの徹底や再生材の活用をはじめ、「良いものを長持ちさせる」という考え方（ストックマネジメント）に基づいた都市施設のライフサイクルコストの低減、建築物の長寿命化、民間活力の導入などを進めるとともに、将来的に整備予定のものも含めた都市基盤を最大限に活用するなど、限られた財源の中で京都の特性を徹底的にいかします。

また、都市計画の視点に加え、文化、産業、商業、観光、大学、子育て、福祉など、まちづくりに関わる様々な関係分野の計画や施策と連携しながら、多様な手法や取組の組合せによるアプローチを展開し、効率的で個性ある都市づくりを推進します。



将来の都市構造～京都の都市特性を踏まえた「持続可能な都市構造」～

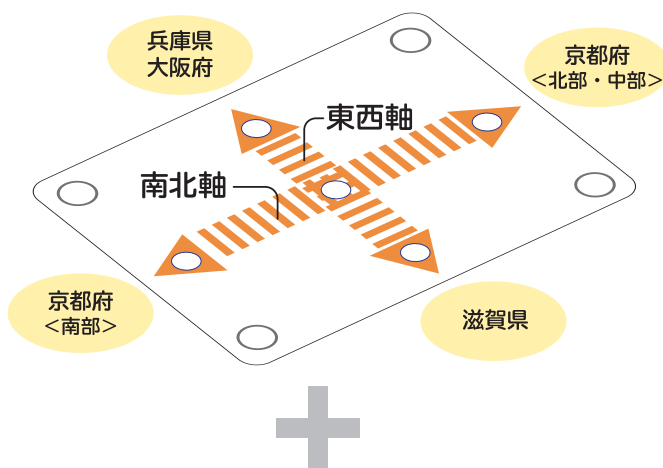
①京都市の特性を踏まえた土地利用の展開



- 保全・再生・創造の土地利用
- 山間部から市街地内部にかけての段階的な空間形成
- 京都ならではの魅力と都市活力の循環

基本的な考え方の拡充

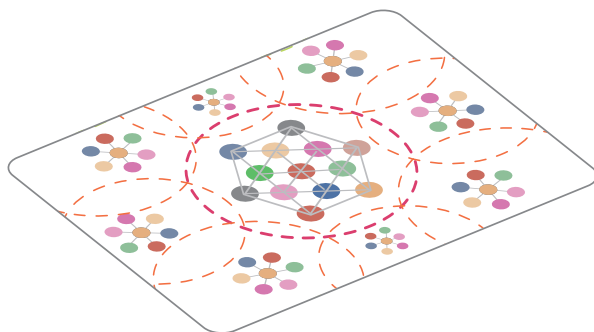
②都市活力の向上と安心安全・脱炭素社会を実現する都市構造の形成



- 交通拠点を中心とした都市拠点の強化
- 鉄道等の公共交通をはじめとした都市軸の活用
- 近隣都市との一体性や相互の効果を踏まえた都市圏の強化

新たな視点

③相互につながる個性的な地域の形成



- 個性的な地域の形成とネットワークの強化
- 新たな時代の「職住共存・職住近接」の形成

新たな視点

- これからの「暮らしと営み」に対応したまちづくりの推進

[学術文化・交流・創造ゾーン,
ウォーカーブルシティ等]

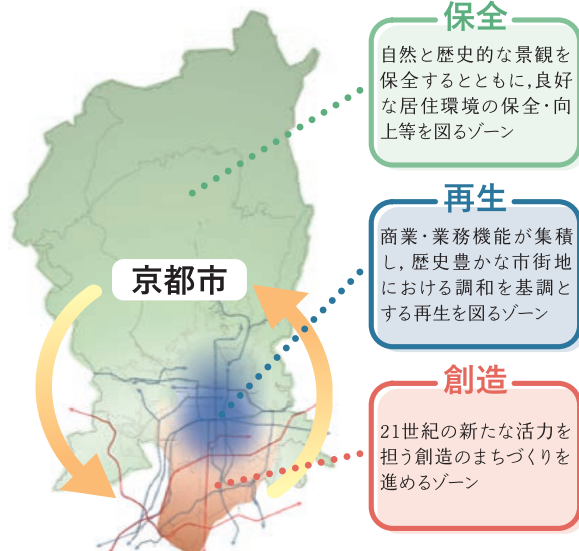
新たな視点

豊かな自然や地域に息づく文化、ヒューマンスケールなまちといった特性は、歴史都市・京都が未来に受け継ぐ魅力の源泉です。

鉄道や高速道路などの交通インフラ整備や産業集積地・住宅団地の整備が進み、近隣都市とのつながりを創出していく、次世代のための都市環境と都市機能の受皿をつくるゾーンであり、新たな価値を創造する都市であるための、都市活力の伸びしろといえます。

商業・業務機能が集積し、歴史や文化が積み重なる調和を基調とするゾーンとして、保全ゾーンと創造ゾーンの要素を兼ね備えています。

これらを踏まえ、「保全・再生ゾーン」における京都ならではの魅力と、「創造・再生ゾーン」で生み出す都市活力を循環させることにより、多様な地域の拠点の活性化や働く場の確保などを実現し、地理的制約への対応と市域全体の持続性を確保していきます。

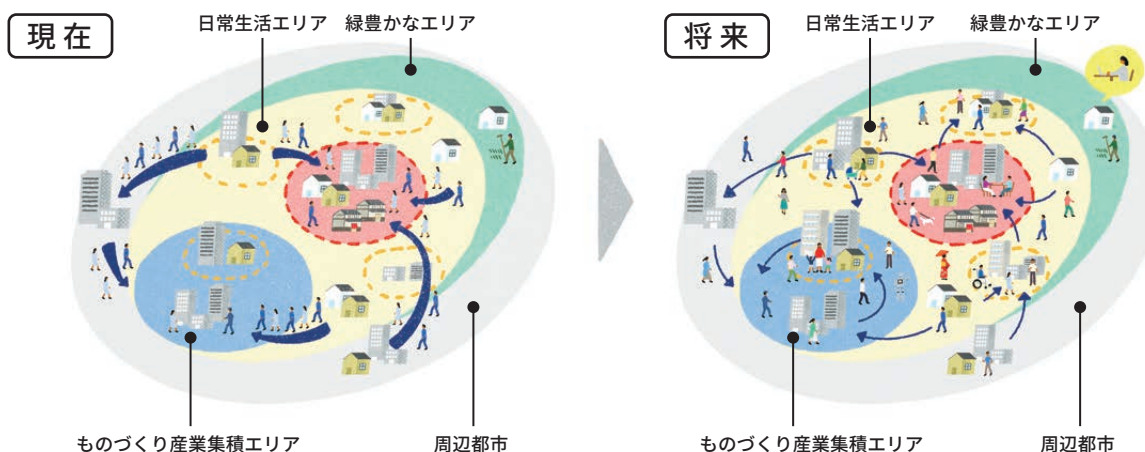


近隣都市との一体性や相互の効果
を踏まえ、京都都市圏の中核である
本市の魅力と活力の維持・向上を図
るとともに、けいはんな学研都市（関
西文化学術研究都市）や大阪都市圏
も視野に京都独自の求心力を発揮し、
東京一極集中への対応、京都なら
ではの魅力の発信を図ります。



真のワーク・ライフ・バランスの実現や、ウィズコロナ・ポストコロナ社会も展望し、これからの暮らし方にも対応した都市を目指すため、都心部への都市機能の集積だけでなく、地域中核拠点エリアをはじめとした周辺部の多様な地域の拠点にも、その特性に応じた働く場や住む場所を充実させるなど、徒歩圏内で暮らしと営みの両方を賄えるまちづくりを推進し、様々な人々が活躍するヒューマンスケールな地域の魅力向上を図ります。

■住まい方・働き方の将来イメージ



目標とする都市の姿

【環境】地球環境への負荷が少ない都市

2050年までのCO₂排出量「正味ゼロ」などの達成や自然共生社会の実現に向けて、都市環境や価値観、ライフスタイル、産業構造などの抜本的な転換を進めるとともに、生物多様性の保全を図り、地球環境への負荷が少ない都市を目指します。

■地下鉄



■バス



【安心・安全】安心で安全な都市

大型台風や集中豪雨などの深刻化する気候変動の影響に対応する適応策や、新型コロナウイルス感染症などの未曾有の事態に対応するレジリエンスの重要性も高まっています。

そのため、歴史都市の特性に応じた防災・減災対策やユニバーサルデザインの理念に基づいた取組を図り、災害に強く、ウィズコロナ・ポストコロナ社会においても、高密度でありながらゆとりのある京都ならではの安心で安全な都市を目指します。

- ①災害に強い歴史都市
- ②ユニバーサルデザインの理念に基づいた都市

■細街路の様子



目標都市



【文化】歴史や文化を継承し創造的に活用する都市

都市格を高め、京都が京都であり続けるために、歴史的景観を形成する建築物や庭園、優れた景観、祭りをはじめとする伝統行事や伝統芸能、すまいや生活の文化、高い感性と匠の技を備えた伝統産業など、有形無形の京都の特性を守り、育むことはもちろん、これらを創造的に活用し、次世代に継承していくとともに、その魅力を一体的に発信するなど、世界に向けて独自の求心力を発揮する都市を目指します。

- ①歴史的な町並み景観を守り、育む都市
- ②京町家や庭園等の歴史・文化資源を活用する都市
- ③京都ならではの文化を継承・創造する都市

■京町家



様々な都市活動を持続的に展開することのできる都市を実現するため、京都市基本計画で示されている6つの京都の未来像を基本に、互いに深く関連する「環境」「経済」「生活」「文化」「安心・安全」の5つの面から、目標とする都市の姿の実現を目指します。

- ①モビリティの転換等による脱炭素型の都市
- ②エネルギーの転換による脱炭素型の都市
- ③自然と共生した脱炭素型の都市

とする の姿



【経済】 活力ある都市

京都都市圏の更なる活力を創出していくために、産業・商業・業務機能や大学をはじめとする知的機能の集積、歴史・文化資源の集積といった様々な資源をいかし、その質を更に高めるとともに、創造ゾーンにおける伸びしろをいかして、都市基盤や近隣都市とのつながりを踏まえ、定住人口や交流人口などを拡大し、それらを支える都市環境や都市機能の創出を図りつつ、活力ある都市を目指します。

また、市街地の中にも歩きたくなる魅力的な空間が充実するとともに、身近な地域にも働く場や暮らしを支える機能、ゆとりと付加価値のある空間が広がり、市全域にわたってにぎわいのあるクリエイティブな都市を目指します。

- ①にぎわいのある都市
- ②ものづくり・大学の都市
- ③質の高い観光都市

■桂イノベーションパーク



【生活】 誰もが快適に暮らすことができる都市

都市の発展と活力を維持するためには、満足度が高く、誰もが働きやすく、子育てのしやすい「真のワーク・ライフ・バランス」を実現した健康で安心・快適な暮らしや、ヒューマンスケールな地域の魅力が身の回りにあふれ、身近な生活圏で「職住」のみならず「学遊」などの多様な機能が融合した、暮らしてみたくなる生活空間が必要です。

そのため、地域特性や既存の交通ネットワークをいかしつつ、日常の生活を支えるとともに、快適性と利便性の高い地域の形成を図ることで、ウィズコロナ・ポストコロナ社会も展望し、これからのライフスタイルにも対応した暮らしやすい生活圏を維持・構築し、誰もが快適に暮らすことのできる都市を目指します。

- ①地域の個性をいかした快適性と利便性の高い都市
- ②暮らしやすい生活圏がネットワークする都市
- ③多様な地域コミュニティの活動が盛んな都市

■地域での交流行事
(修徳公園での夏祭り)



全体構想～都市計画の方針～

1 土地利用

保全・再生・創造の土地利用を基本とし、京都の歴史性や景観など、これまで引き継がれてきた地域ごとの特性をいかして都市の持続性を高めるため、効果的な土地・空間利用や都市機能の配置・誘導を図ります。

(1) 商業・業務の集積地等における土地利用

■五条通沿道



①にぎわいを生み出す都心部の魅力向上

- ・ 京都都市圏の中核としての求心力の向上
- ・ 京都の都市活力をけん引する広域拠点エリアにおける京都の都市格の向上と地域経済の活性化につながるオフィスをはじめとする商業・業務機能の立地の誘導
- ・ 歴史的都心地区周辺における伝統と最先端技術の融合や京町家をはじめとした歴史的なストックのオフィス活用など、クリエイティブ産業※¹を支える拠点の創出
- ・ 京都リサーチパークが位置する五条通沿道における緑地などの人が交流できる空間やコワーキングスペース※²などを備えた質の高いオフィスの誘導など、働きやすく潤いある環境整備の推進

②公共交通と連携した商業・業務機能の集積と生活拠点の充実

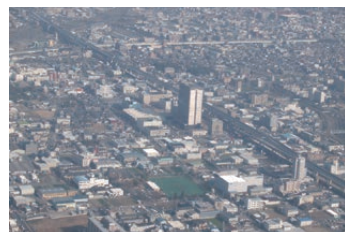
- ・ 定住人口の求心力となる地域中核拠点エリアにおける若年・子育て層のニーズに合った居住環境の充実や、居住地から近くアクセス性の高いシェアオフィス※³やコワーキングスペースを備えた新しい形のオフィスなどの働く場の充実
- ・ 市境での公共交通の拠点周辺における隣接市町の都市計画との一体性の向上や、相互の効果を発揮する機能の充実
- ・ 各地域での主要な公共交通の拠点におけるまちの魅力や強靱性を高める環境整備の充実

③京都の魅力・活力を支える特色ある通りの形成

- ・ 機能的な道路ネットワークをいかした都市活動と市民生活の利便性の向上、魅力的な歩行空間の創出
- ・ 将来的に整備予定の都市基盤を戦略的に活用。向日市との市境地域における将来的な都市計画道路の整備や向日市地域での都市開発を見据えた多様な都市機能の適切な配置・誘導

(2) ものづくり産業等の集積地における土地利用

■らくなん進都



①ものづくり拠点の形成

- ・ 京都の特性（大学、世界的なものづくり企業、中小・ベンチャー企業の集積）をいかしたオープンイノベーション※⁴の促進
- ・ ものづくり産業集積エリアにおける工場の操業環境が充実した拠点の創出と業務・生産・流通機能の誘導
- ・ 梅小路京都西駅周辺などにおけるクリエイティブなまちづくりの取組と連携したスタートアップ※⁵のオフィスやラボの集積
- ・ 鉄道駅に近接しているアクセス性の高い工業地域において、工場の操業環境を維持しつつ、生活利便が整った居住環境を創出
- ・ 高速道路のインターチェンジに近接し、農地など周辺環境とも調和した産業用地の創出

②ものづくり産業と住・農の共存

- ・ 西陣織や京焼・清水焼などの京都を代表する伝統産業を中心とする地域における伝統産業と最先端技術の融合による産業イノベーションの推進
- ・ 住・農・工の土地利用が適切に共存する環境の維持

(3) 多様な住まい方を選択できる土地利用

- ・ 多くの人々の生活の場である日常生活エリアにおける身近な生活圏で暮らしを支える多様な機能が充実した居住環境の形成
- ・ ものづくり産業と居住機能が混在する地域におけるものづくりと調和し生活利便が整った居住環境の創出
- ・ 市街化調整区域や山間地域などの農林業が中心の地域における既存集落の住環境・生活環境の充実、農林業及び地域資源をいかした観光や森林サービスなどの産業の振興



(4) 緑豊かな地域における土地利用

- ・ 鞍馬や大原などの農山村集落における農林業や地域資源をいかした地域づくりの核となる機能の充実
- ・ 大枝や大原野などの市街化区域周辺に位置する既存集落における住環境や生活環境の充実、文化的・地理的特性をいかした産業などの振興
- ・ 農山村集落における受入環境の充実による地域の魅力をいかしたグリーンツーリズム※6の推進

■山間部の集落



(5) 京都の魅力を高める土地利用

- ・ 歴史や伝統に培われた文化や景観、産業、知恵など、地域の資源をいかしたまちづくり活動や、市民や企業・事業者、専門家などが交流し、新たな価値を創造する場の形成などの促進
- ・ 産業のつながりをいかした大学や文化を創造する大学、地域に開かれた大学などの学術研究機能の誘致
- ・ 京都駅周辺地域におけるアートやデザイン、ものづくり、伝統・先端産業などが融合した様々な取組・活動への支援



(6) 大規模な活用可能地・低未利用地における土地利用

- ・ 市有地や国有地をはじめとする公的な低未利用地において、本市の都市的な課題の解決や地域特性などを踏まえた将来像の実現に資するよう、そのポテンシャルを最大限発揮させ、地域の魅力を高める都市機能を配置・誘導
- ・ 団地再生事業により生じる用地における地域及び市全体の魅力・活力を高める土地利用の推進

■京都市立芸術大学



出典 :Google Earth

※1：芸術や創造性、技能・技術が作品の価値を生み、文化を形成し得る工芸や出版、広告、映画・アニメ、音楽、ファッションなどの産業分野の総称
※2：オープンなワークスペースを共用し、各自が自分の仕事をしながらも、自由にコミュニケーションを図ることで情報や知見を共有し、協業するパートナーを見つけ、互いに貢献しあう「ワーキング・コミュニティ」の概念
※3：同じスペースを複数の利用者によって共有するオフィス
※4：企業や大学・研究機関、起業家など、社外から新たな技術やアイデアを募集・集約し、革新的な新製品（商品）・サービス又はビジネスモデルを開発すること
※5：新しいビジネスモデルで急成長をめざす新興企業
※6：農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動

2 歩くまち

「歩いて楽しいまちづくり」をより一層推進するとともに、誰もが「出かけたくなる」魅力と活力のあふれるまちと暮らしの実現に向けた取組の展開や、市内の各エリア間ではもとより、近隣都市を含めて有機的かつ広域的につながり交通ネットワークの検討などにより、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の更なる進化を目指します。

■四条通



- (1) 地域特性に応じた持続可能なまちづくりを実現する公共交通ネットワークの形成
- (2) 誰もが「出かけたくなる」歩行空間の創出をはじめとする魅力的なまちづくり
- (3) 自転車の安心・安全な利用環境の充実と多様な場面での活用

3 景観

京都の優れた景観を50年後、100年後の未来へと引き継ぎ、歴史都市・京都の都市格と魅力を更に高めていくため、三山をはじめとする自然景観や歴史的な町並み景観の保全、市民一人ひとりのいきいきとした暮らしや営みを含めた景観の形成など、「見る景観」から「感じる景観」、「生きた景観」へと政策の進化を図ります。

■祇園新橋地区
(伝統的建造物群保存地区)



- (1) “盆地景”を基本に自然と共生する景観形成
- (2) 伝統文化の継承と新たな創造との調和を基調とする景観形成
- (3) “京都らしさ”をいかした個性ある多様な空間から構成される景観形成
- (4) 都市の魅力・活力を生み出す景観形成
- (5) 重要文化的景観の保全

4 防災

京都に暮らす人々だけでなく、京都を訪れる人々にとっても、災害発生時における安心・安全を確保し、被災後の都市機能を確保するため、「災害による被害を防ぐ（防災）」、「災害の被害を軽減する（減災）」という考えの下、災害に備え、歴史の継承をはじめとした地域特性に配慮した防災対策の推進や、市民と行政が一体となって都市のレジリエンスを向上させることで、災害にしなやかに強く対応できる都市の形成を図ります。

また、被害を受けた場合においても、都市、人々の生活、地域コミュニティ、産業、京都ブランドを再生するために、地域社会の強い絆を守りつつ迅速な復旧・復興を図ります。

■防災施設を備えた太秦安井公園



- (1) 様々な災害に対する対策
- (2) 被災後を想定した対策

5 道路

「ものづくり都市・京都」を支える都市の骨格である幹線道路と市民の活動を支える補助幹線道路などを連携させることにより、円滑な移動・輸送を確保し、都市の活力の向上を図るとともに、災害時における避難や緊急輸送の機能を確保するため、幹線道路ネットワークを充実し、都市のレジリエンスの向上を図ります。

■鴨川東岸線（第二工区）



6 公園・緑地

地球環境、生物多様性、歴史の継承などに留意し、地域コミュニティの活性化や子育て環境の充実とはもとより、魅力ある都市景観の形成、市民の精神的な充足、気候変動の影響の軽減と適応、防災面など、多様なニーズに応じた公共空間として、身近な公園・緑地や、産学公民などの多様な主体が連携する柔軟な公園運営などによりにぎわい・交流を生み出す拠点の充実を図ります。

また、本市の歴史的景観の礎となっている三山の緑と市街地を結び、連続性があり骨格となる街路樹や河川の緑などの充実を図ります。

さらに、自然が有する多様な機能、仕組みを活用する「グリーンインフラ」の導入を推進します。

■ Park-PFI※1により整備した大宮交通公園



- (1) 身近な公園・緑地の充実
- (2) にぎわい・交流を生み出す拠点等の充実
- (3) 街路樹・河川等の連続性のある緑の充実

※1：民間事業者が設置する飲食店などの収益を公園施設の整備などに充てる仕組み

7 市街地整備

細街路や密集市街地における歴史都市・京都の特性に応じた対策や公共施設を面的に整備する土地区画整理事業などにより、災害に強く、安心・安全な市街地の形成を図ります。

■土地区画整理事業（伏見西部地区）



- (1) 密集市街地等に関する対策の推進
- (2) 魅力と活力のある市街地の形成

8 水・河川

「水と共に生きる」という水共生の理念の下、流域全体を見据えた治水対策、良好な水環境の実現、健全な水循環の回復、豊かな水文化の創造及び雨水の利用という基本方針に従い、みずみずしい都市と暮らしの再生を図ります。また、自然が有する多様な機能、仕組みを活用する「グリーンインフラ」の導入を推進します。

■四条堀川交差点・雨庭※2



- (1) 都市全体を見据えた治水対策
- (2) 豊かな水環境・水文化の創出

※2：雨水を一時的に貯留し、時間をかけて浸透させるための植栽空間

9 その他市民の暮らしを支える施設

これまでから供給施設及び処理施設（水道、ごみ焼却場など）や学校、病院、市場、火葬場、一団地の住宅施設などは、市民の暮らしを支えてきました。

今後は社会構造の変化、類似の民間施設の充実などを踏まえ、施設が持つ機能を持続可能なものとして提供できるよう在り方を見直すとともに、既存施設の有効活用、集約化・複合化、再編・再配置などを図ります。

■中央卸売市場第一市場



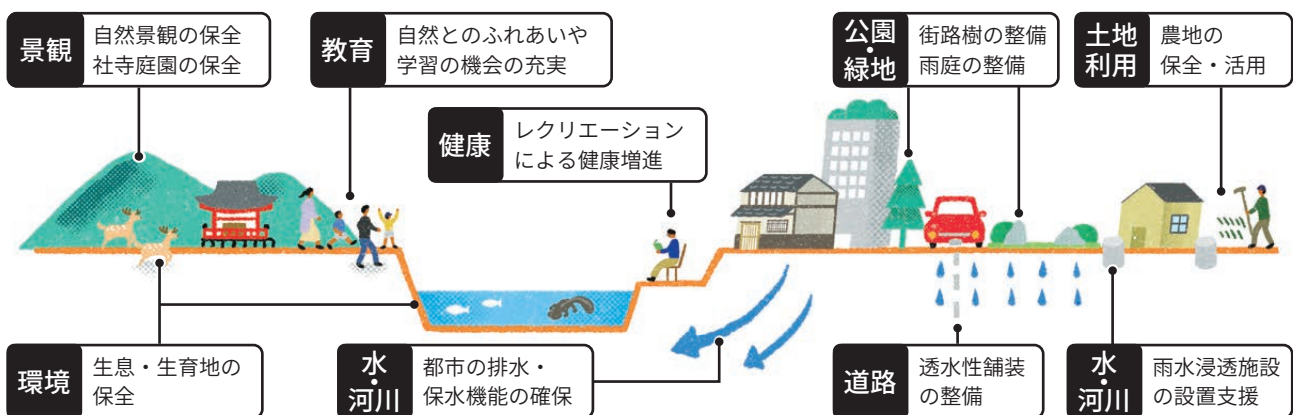
ウォーカブルシティ

まちなかを車中心から人中心の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へ改変していく取組です。これらの取組は都市に魅力と活力をもたらします。



グリーンインフラ

自然が有する多様な機能・仕組みを活用したインフラ整備や土地利用の考え方で、「防災」・「生物の生息の場」・「良好な景観」・「レクリエーション」など、様々な分野に効果が波及し、魅力ある地域づくりに資する取組です。



クリエイティブシティ

起業家、起業支援者、地域企業、大学、金融機関、公的機関などが結びつき、イノベーションを起こすことで新たなスタートアップを次々と生み出し、さらにそれが優れた人材・技術・資金を呼び込むという好循環で発展を続けていきます。



策定の背景

市域全体の都市計画の基本的な考え方として、「保全・再生・創造」の土地利用を基本としながら、多様な地域の魅力や価値を引き出し、ひいては京都ならではの魅力と都市活力の循環につなげることで、京都の都市特性を十分に踏まえた持続可能な都市構造の実現を目指すこととしています。

その実現に向けては、定住人口の確保や産業空間の創出といった本市の基礎的課題に対して、各地域において個々に対応することはもとより、多様なポテンシャルを持つ各地域をネットワークさせ、まちづくりの効果を最大限にいかす視点が重要です。

そのような考え方の下、方面ごとに将来像やまちづくりの方向性を即地的・総合的に分かりやすく示した「方面別指針」を策定します。

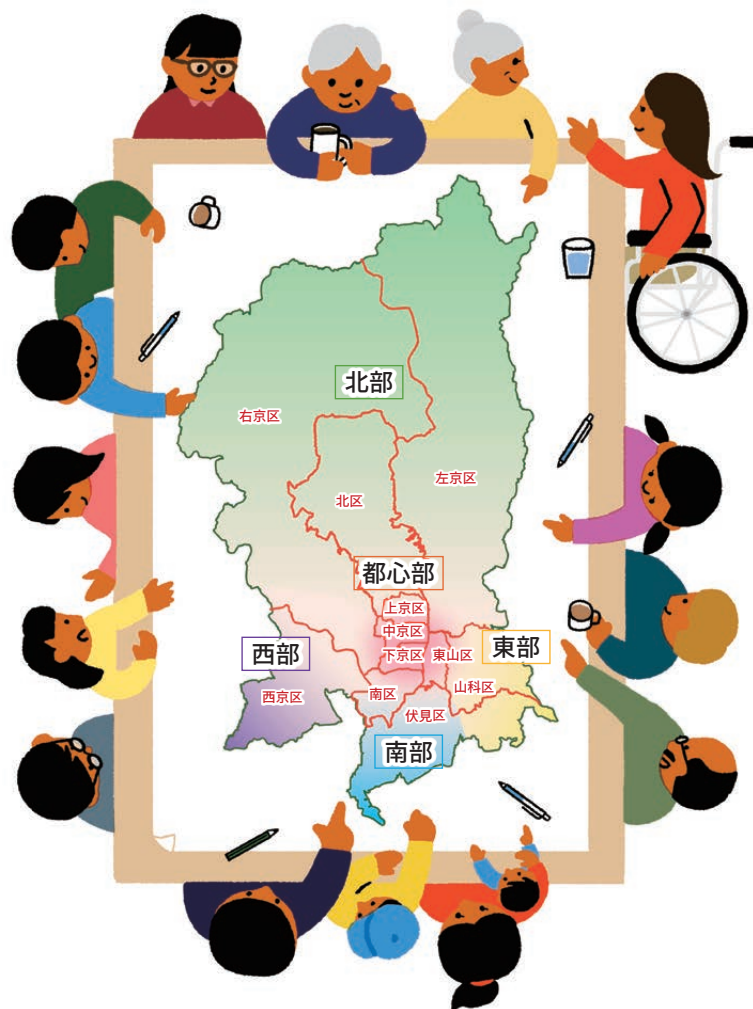
方面別指針の役割

個々の方面の強み・役割を明確化し、方面間相互のつながりも踏まえ、課題・ポテンシャルに的確に対応した施策展開を行うための土地利用の基本的な方針を示すことにより、以下の効果を引き出します。

- 1 市民・事業者にとってより身近な方針として、各地域の将来像を共有
- 2 各方面の総合力により、「市域全体の将来ビジョンの実現」を推進
- 3 分野横断的に連携・融合させた政策を、より即地的・効果的に展開

方面の区分

地形や土地利用の状況などに加え、市内外へ伸びる鉄道や道路のつながり、駅拠点のまとまりなどを考慮し、市域を「北部」「都心部」「西部」「南部」「東部」の5方面に区分します。



北部

■まちづくりの基本コンセプト■

豊かな自然や文化、伝統産業、学術資源など、暮らしに息づく貴重な資源を守り、いかして、京都の魅力と誇りを将来にわたり受け継ぐ



■主な地域の将来像と暮らしのイメージ■

①方面全般

人々の暮らしや健康を支える多様な機能、良質なにぎわいと調和した潤いとゆとりある居住環境が維持されるとともに、豊かな自然環境や農林業、歴史的なストックなど、古くから受け継がれてきた資源と新しい産業や技術とが結び付き、クリエイティブな活動が展開され、新たな魅力や価値の創出につながっている。

②地域中核拠点エリア

〈国際会館駅周辺〉

豊かな自然に囲まれたゆとりある居住環境と調和しながら、文化・MICE・学術機能が集積した魅力ある拠点が形成され、あらゆる世代の交流が促進されている。

MAP ①

〈北大路駅周辺〉

交通結節・商業の複合機能を核に、大学などと連携し、住環境とも調和した新たな形のオフィスや商業施設の立地が進み、にぎわいが広がっている。

MAP ②

〈北野白梅町駅周辺〉

西陣地域の新たな働く場の創出や歴史資産の魅力をいかし、住環境とも調和した新たな形のオフィスや生活利便施設の立地が進み、活気が生まれている。

MAP ③

〈今出川駅周辺〉

京都御苑や社寺などの歴史的な景観や緑と調和した閑静な住宅地が維持されるとともに、大学との連携により、新たな魅力やにぎわいが生み出されている。

MAP ④

〈出町柳駅周辺〉

商店街をはじめとする地域の商業・業務機能をいかし、団地再生のまちづくりとの相乗効果を生むように、住環境との調和の下、新たな形のオフィスや商業施設の立地が進み、にぎわいが広がっている。

MAP ⑤

③ポテンシャルの高い主な個別地域

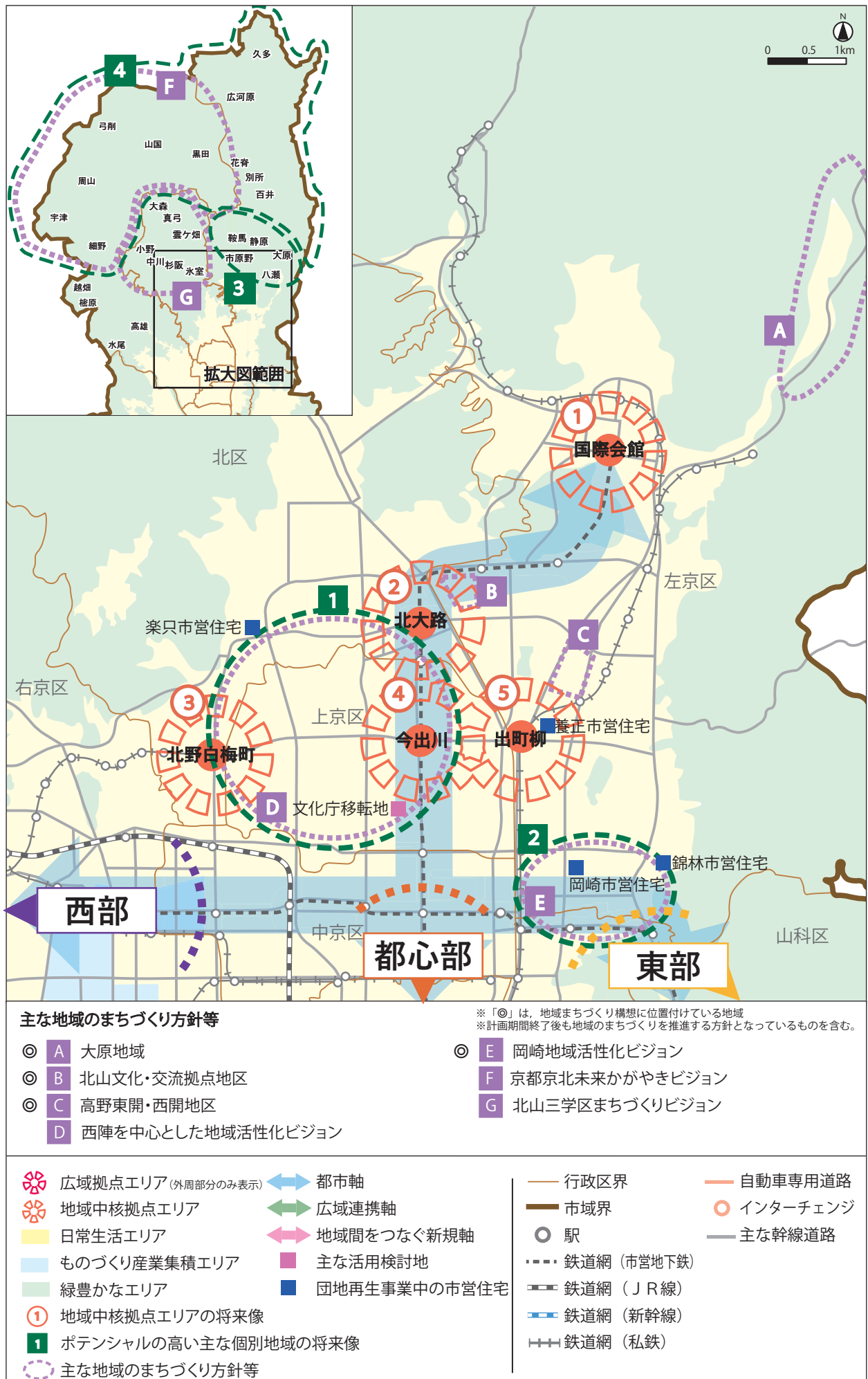
- 西陣地域では、伝統産業と最先端技術の融合を図るなど、地域で受け継がれてきた歴史・文化、匠の知恵や技をいかしつつ、クリエイティブ産業を支える拠点として、暮らしと調和した働く場が創出されるなど、まちの魅力・活力が向上している。

MAP ①
- 岡崎地域では、都市の豊かな緑と融合しながら、文化芸術に触れられる魅力的な機能がより一層充実し、更なるにぎわい・交流が生み出されている。

MAP ②
- 鞍馬や大原などの市街化調整区域における既存集落では、暮らしを支える施設や観光資源などをいかした地域づくりの核となる施設が充実し、地域の生活やコミュニティが維持されるとともに、多様な人々の交流が活発になっている。

MAP ③
- 京北地域や花脊などの山間部の地域では、教育環境の充実などをいかしながら、2拠点居住やワーケーションといった新たな暮らしや働き方のニーズにも対応した環境の整備が進み、移住・定住の促進につながっている。

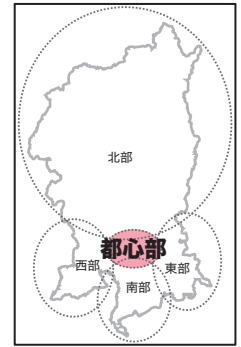
MAP ④



都心部

■まちづくりの基本コンセプト■

京都らしい歴史的なストックと最先端の機能が重なり合う都心空間の
魅力に磨きをかけ、京都の都市格の象徴として都市活力をけん引する



■主な地域の将来像と暮らしのイメージ■

①方面全般（広域拠点エリア）

- 地域の文化・コミュニティや職と住が共存する歴史的な町並みと、広域的な商業施設、多くの企業が活動するオフィスビルやホールなど複合的な機能が重なり合う京都ならではの都心空間において、その魅力を更に高める機能が充実し、国内外から多様な人々が集い、暮らし、働き、交流している。
- 京都都市圏の中核を担う京都駅とその周辺地域では、都市活力をけん引するオフィスビルや商業施設などの都市機能の高度集積が進むとともに、市立芸術大学移転や市中央卸売市場の再整備、梅小路京都西駅の開業を契機として、クリエイティブなまちづくりの機運が高まり、アートやデザイン、ものづくり、伝統・先端産業などが融合した様々な取組・活動が展開されている。

②地域中核拠点エリア

〈丸太町駅周辺〉

京都御苑の豊かな緑とも調和しながら、商業・業務機能の更なる充実が図られるとともに、文化庁の移転を契機に京都の官庁街として風格のある拠点が形成されている。

MAP ①

〈円町駅周辺〉

多くの通学・通勤者が行き交うまちとして、住環境とも調和しながら、新たな形のオフィスや生活利便施設の立地が進み、更なるにぎわいが生まれている。

MAP ②

〈西院駅周辺〉

都心部や西部、大阪方面への利便性をいかし、西部方面の拠点として、商業・業務・居住などの多様な機能の複合的な集積が進み、混在によるにぎわいが高まっている。

MAP ③

〈東山駅周辺〉

三条京阪駅周辺や岡崎地域のまちづくりをつなぐエリアとして、地域の商業・業務機能が充実し、多くの人が行き交う活気あるまちとなっている。

MAP ④

〈七条駅周辺〉

市立芸術大学の移転を契機に、地域と学生・若手芸術家との交流が活発に行われ、文化芸術都市・京都の新たなシンボルゾーンとして魅力が高まっている。

MAP ⑤

〈西大路駅周辺〉

駅周辺のバリアフリー化や土地の有効活用が進み、周辺の業務機能や工場の操業環境とも調和した潤いある居住環境が創出され、回遊性と利便性を兼ね備えた拠点が形成されている。

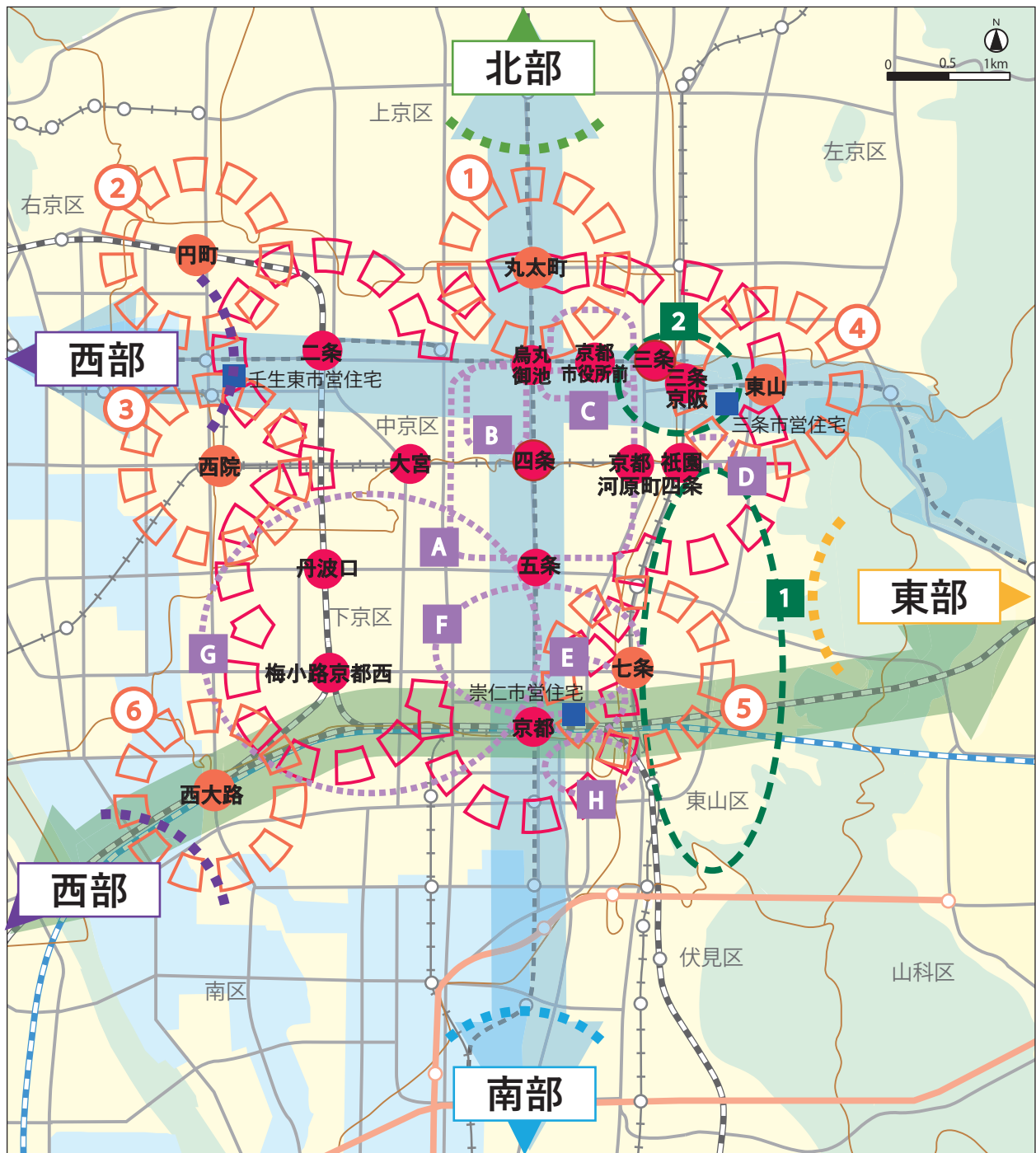
MAP ⑥

③ポテンシャルの高い主な個別地域

- 東山の高密な市街地では、多くの社寺や落ち着いたある居住環境が継承されながら、地域の防災性の向上や空き家の活用が進み、若者から高齢者まであらゆる世代にとって安心・快適で魅力的な地域が形成されている。
- 三条京阪駅周辺では、商業・業務機能などの充実とともに、学校跡地の活用や団地再生事業により生まれた用地などの有効活用が進み、多様な機能が集積したにぎわいと活力あふれる拠点が形成されている。

MAP ①

MAP ②



主な地域のまちづくり方針等

- ◎ A 職住共存地区整備ガイドプラン
- ◎ B 明倫元学区地区
- ◎ C 姉小路界わい地区
- ◎ D 祇園四条地区
- ◎ E 京都市崇仁地区将来ビジョン検討委員会報告書

※「◎」は、地域まちづくり構想に位置付けている地域
 ※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

- ◎ F 京都駅東部エリア活性化将来構想
- ◎ G 京都駅西部エリア活性化将来構想
- ◎ H 京都駅東南部エリア活性化方針

- ⊗ 広域拠点エリア (外周部分のみ表示)
- ⊗ 地域中核拠点エリア
- 日常生活エリア
- ものづくり産業集積エリア
- 緑豊かなエリア
- ① 地域中核拠点エリアの将来像
- 1 ポテンシャルの高い主な個別地域の将来像
- ⋯ 主な地域のまちづくり方針等
- ⇄ 都市軸
- ⇄ 広域連携軸
- ⇄ 地域間をつなぐ新規軸
- 主な活用検討地
- 団地再生事業中の市営住宅

- 行政区界
- 市域界
- 駅
- ⋯ 鉄道網 (市営地下鉄)
- ⋯ 鉄道網 (JR線)
- ⋯ 鉄道網 (新幹線)
- ⋯ 鉄道網 (私鉄)
- 自動車専用道路
- インターチェンジ
- 主な幹線道路

東部

■まちづくりの基本コンセプト■

時代を捉えてポテンシャルをいかし、次の世代にも選ばれる新たな魅力を創出・発信するなど、これからの京都の可能性を引き出す



■主な地域の将来像と暮らしのイメージ■

①方面全般

地下鉄東西線や新十条通の整備などにより高まった市内中心部や南部方面、近隣都市などへのアクセス性をいかし、幹線沿道・沿線を中心に、新たな魅力の創出や活力の向上に資する多様な都市機能が集積するとともに、安心・快適で歩きたくなるようなにぎわいと潤いある都市空間が形成されている。

②地域中核拠点エリア

〈山科駅周辺〉

J R、京阪、地下鉄の3路線が走る交通の要衝として、市内各地域や近隣都市など広範囲の人々をひきつける商業施設の集積や、多様な働き方に対応したオフィス空間が創出され、職・住・学・遊が充実した京都の東のにぎわい拠点が形成されている。

MAP ①

〈栂辻駅周辺〉

東部地域の新たな核となるエリアとして、区役所などの公共施設や商業施設などの集積や幹線道路との結節性をいかしながら、土地の有効活用が進み、新たなにぎわいが生まれるとともに、利便性の高い良質な居住環境が形成されている。

MAP ②

〈醍醐駅周辺〉

駅周辺の文化・商業機能の更なる集積が進み、公営住宅などの既存ストックも有効に活用されながら、利便性が高く周辺の自然環境とも調和した潤いある居住環境が形成されている。

MAP ③

〈六地蔵駅周辺〉

J R、京阪、地下鉄の3路線の交通結節性をいかして、商業や居住機能の集積が進むとともに、宇治市域と一体となったにぎわいと魅力ある町並みが形成され、地域間の交流も活発に行われている。

MAP ④

③ポテンシャルの高い主な個別地域

- 東部グリーンセンター跡地とその周辺地域では、教育環境の充実や公営住宅の適切な維持・活用と合わせて、新たな価値やにぎわいの創出に資する多様な施設の立地が進み、エリア全体としての魅力が高まっている。
- 本市が移転をはじめとする敷地の有効活用を要望している京都刑務所が存在する地域では、本市の都市的な課題の解決や地域特性などを踏まえた将来像の実現に資する機能が充実し、地域の魅力・活力の向上につながっている。
- 大規模な住宅団地とその周辺地域では、既存施設が適切に維持・活用され、若者から高齢者まであらゆる世代にとって魅力的な居住環境の充実が図られるとともに、新たな魅力の発信や創出など、若年・子育て層の呼び込みにつながる活動が進んでいる。

MAP ①

MAP ②

MAP ③



主な地域のまちづくり方針等

※「◎」は、地域まちづくり構想に位置付けている地域
 ※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

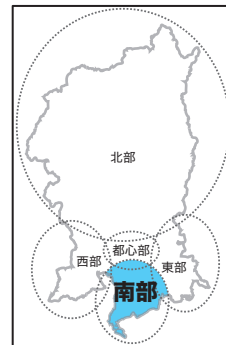
A 京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略

- 広域拠点エリア (外周部分のみ表示) - 地域中核拠点エリア - 日常生活エリア - ものづくり産業集積エリア - 緑豊かなエリア ① 地域中核拠点エリアの将来像 1 ポテンシャルの高い主な個別地域の将来像 - 主な地域のまちづくり方針等	- 都市軸 - 広域連携軸 - 地域間をつなぐ新規軸 - 主な活用検討地 - 団地再生事業中の市営住宅	- 行政区界 - 市域界 - 駅 - 鉄道網 (市営地下鉄) - 鉄道網 (JR線) - 鉄道網 (新幹線) - 鉄道網 (私鉄)	- 自動車専用道路 - インターチェンジ - 主な幹線道路
--	---	---	---

南部

■まちづくりの基本コンセプト■

ものづくり産業などの集積を図り、快適な暮らしとも調和する都市環境を創出するなど、京都の新たな活力を生み出す創造ゾーンの中心を担う



■主な地域の将来像と暮らしのイメージ■

①方面全般

内陸都市である京都の創造ゾーンの中心として、伝統や先端の知恵と技術の蓄積、充実した都市基盤などの強みをいかしながら、ものづくり企業をはじめとする多種多様な企業や工場の更なる集積が進むとともに、駅周辺のエリアを中心として、働きやすく、居住環境とも調和した快適な都市空間が形成されている。

②地域中核拠点エリア

〈竹田駅周辺〉

地下鉄、近鉄が結節するターミナル機能をいかし、南部創造の新たな拠点として商業・業務機能などが集積するとともに、利便性の高い良質な居住環境が充実し、にぎわいと活力に満ちたまちが形成されている。

MAP ①

〈丹波橋・伏見桃山・桃山御陵前駅周辺〉

活気ある商店街や歴史ある市街地の多様な観光資源をいかし、住環境とも調和しながら、商業・業務機能の立地が進むなど、更なるにぎわいが生まれている。

MAP ②

〈中書島駅周辺〉

大阪方面への利便性をいかし、商業・業務機能などが集積し、伏見旧市街地の歴史的景観とも調和した新たな魅力・活力の創造拠点が形成されている。

MAP ③

〈淀駅周辺〉

京都競馬場をはじめとする娯楽・レクリエーション機能、大阪方面への利便性をいかし、商店街などの商業機能が充実し、住環境とも調和しながら、新たな形のオフィスの立地が進むなど、活気あるまちとなっている。

MAP ④

③ポテンシャルの高い主な個別地域

- 京都駅の南側のエリアでは、京都駅八条口からの乗継利便性、らくなん進都との近接性をいかして、京都ならではの新たなオフィス・ラボ機能の集積地が形成されるとともに、クリエイティブな活動の場の創出により人々をひきつけている。

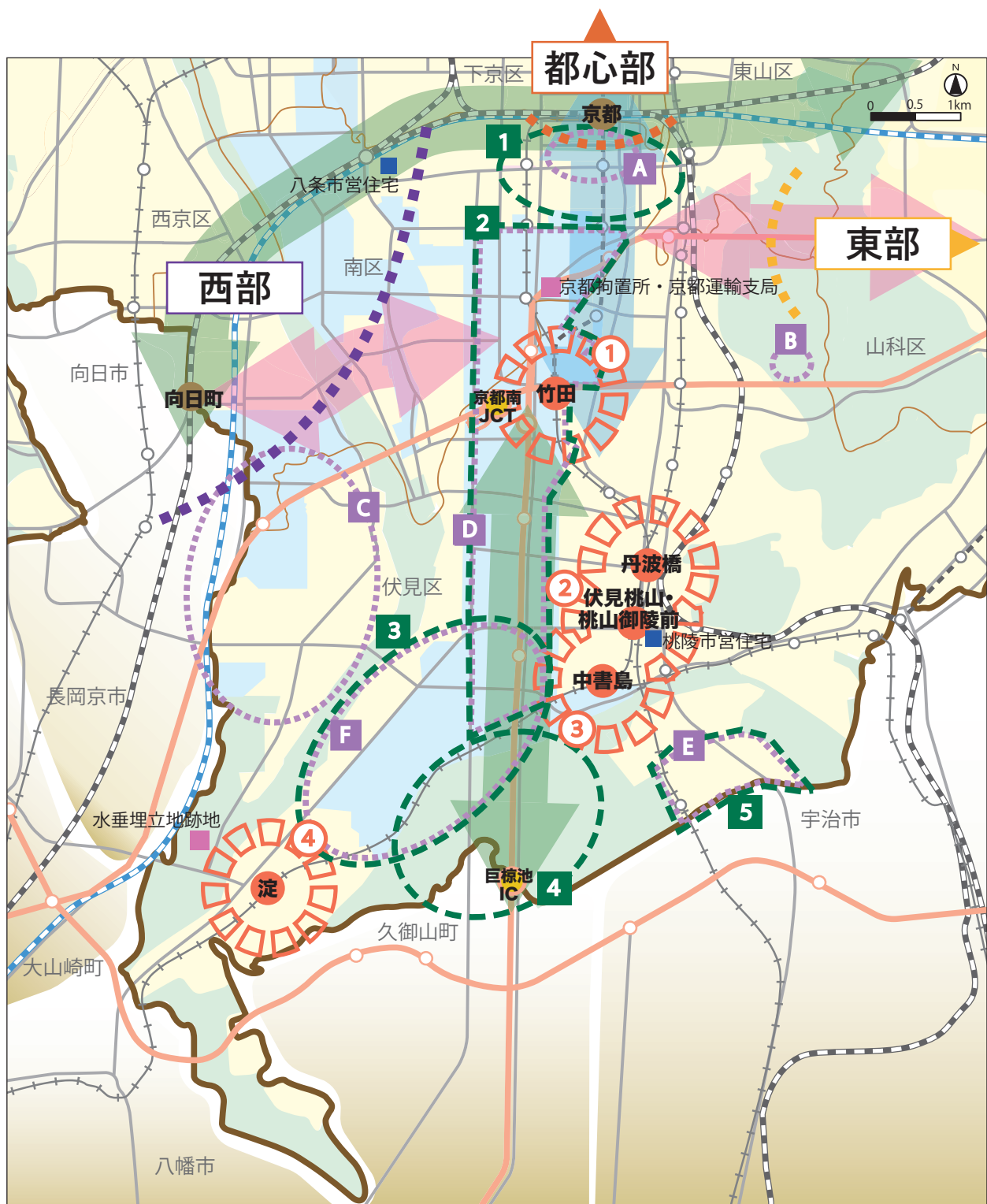
MAP ①
- らくなん進都では、新しい京都を発信するものづくり拠点として、魅力的な都市環境が生み出され、国内外の最先端のものづくり産業をはじめとする企業の進出意欲が高まり、本社オフィスや生産、研究開発、流通機能などが充実している。また、本市が敷地の有効活用を要望している京都拘置所及び京都運輸支局が立地する地域では、らくなん進都のまちづくりを加速させるための機能の充実が進められている。

MAP ②
- 横大路地域では、土地区画整理事業により整備された都市基盤をいかして、多様な産業の集積が進むとともに、働く人にとって快適で魅力的な都市環境が整っている。

MAP ③
- 南部の市街化調整区域では、高速道路のインターチェンジ付近において、農地などの周辺環境とも調和した工場や物流施設などの立地が進み、新たな産業の集積地として京都の都市活力を支えている。

MAP ④
- 向島ニュータウンでは、既存施設が適切に維持・活用されるとともに、学校跡地などの施設や用地などに新たな機能を導入することにより、多文化・多世代共生のまちづくりが進められている。

MAP ⑤



主な地域のまちづくり方針等

- ◎ A 京都駅南口周辺地区まちづくり指針
- ◎ B 大岩街道周辺地域の良好な環境づくりに向けたまちづくりの方針
- ◎ C 久我・久我の杜・羽束師地域の総合的なまちづくりビジョン

※「◎」は、地域まちづくり構想に位置付けている地域
 ※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

- ◎ D らくなん進都(高度集積地区)まちづくり推進プログラム
- ◎ E 向島ニュータウンまちづくりビジョン
- ◎ F 伏見ルネッサンスプラン

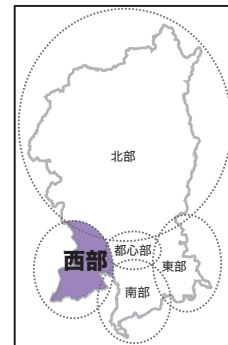
- ⊗ 広域拠点エリア(外周部分のみ表示)
- ⊗ 地域中核拠点エリア
- 日常生活エリア
- ものづくり産業集積エリア
- 緑豊かなエリア
- ① 地域中核拠点エリアの将来像
- 1 ポテンシャルの高い主な個別地域の将来像
- 主な地域のまちづくり方針等
- 都市軸
- 広域連携軸
- 地域間をつなぐ新規軸
- 主な活用検討地
- 団地再生事業中の市営住宅

- 行政区界
- 市域界
- 駅
- 鉄道網(市営地下鉄)
- 鉄道網(JR線)
- 鉄道網(新幹線)
- 鉄道網(私鉄)
- 自動車専用道路
- インターチェンジ
- 主要幹線道路

西部

■まちづくりの基本コンセプト■

先端の学術機能・産業，ゆとりある住宅地，自然や文化などの多様な魅力を高め，つなぐなど，新たな価値やライフスタイルを先導する



■主な地域の将来像と暮らしのイメージ■

①方面全般

京都の西の玄関口として，近隣都市や地域の拠点とのつながりをいかしながら，多様な都市機能の立地・集積が進むとともに，大学・研究機関の知恵やものづくり企業の先端技術，歴史・文化資源などが，人々の交流を伴って融合することにより，新たな魅力や価値が創出され，特色ある地域の暮らしの継承・充実につながっている。

②地域中核拠点エリア

〈嵯峨嵐山・嵐山駅周辺〉

豊かな自然，多様な歴史・文化資源をいかし，商業・居住機能の充実とともに地域全体で新たなまちづくり活動や活発な交流がなされ，住む人，訪れる人の双方にとって満足度の高いまちとなっている。

MAP ①

〈太秦天神川駅周辺〉

交通結節点の利便性，複合的な公共施設の交流機能などを最大限活用し，新たな形のオフィスや生活利便施設の立地が進むとともに，大学やNPOなど多様な主体との連携により，まちづくり活動が展開されている。

MAP ②

〈西京極駅周辺〉

工場やオフィスの集積とともに，良質な住宅や生活に身近な商業施設などが充実し，人々が緑やスポーツにしみながら快適に暮らし，働くことのできる都市空間が形成されている。

MAP ③

〈桂駅周辺〉

大阪・乙訓方面への利便性が高い交通結節点のポテンシャルをいかし，近隣の大学・研究施設などとの連携により，ゆとりある住環境とも調和した新たな形のオフィスや商業施設の集積が進み，活気あるまちとなっている。

MAP ④

〈桂川・洛西口駅周辺〉

近接する向日市域とも都市計画の一体性を図りながら，商業機能の更なる充実とともに，オフィスや住宅など多様な機能が適切に配置され，若年・子育て層に選ばれるエリアとして認知されている。

MAP ⑤

〈洛西バスターミナル周辺〉

緑豊かでゆとりある生活空間があらゆる世代に再評価され，生活利便機能や交通結節機能を核とした暮らしを支える多様な機能が充実し，新たなライフスタイルに対応した居住環境が形成されるなど，ニュータウン全体の再生が進展するとともに，市立芸術大学移転後の敷地では，本市の都市的な課題の解決や地域のニーズなどを踏まえた機能が充実している。

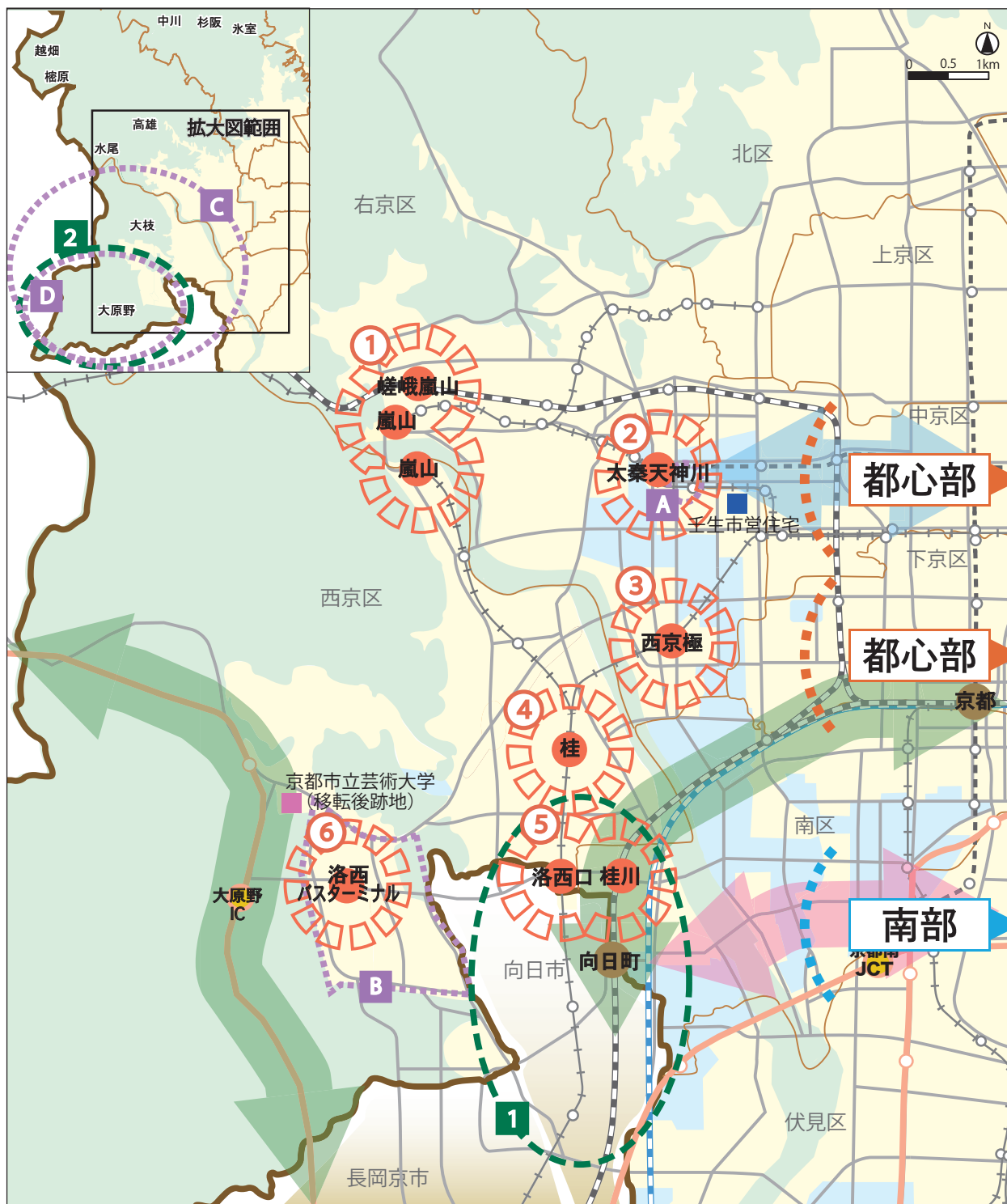
MAP ⑥

③ポテンシャルの高い主な個別地域

- 向日市との市境地域では，道路などの都市基盤施設の整備に伴い土地利用の転換が進み，商業・業務・居住などの多様な都市機能が集積するとともに，向日市域と連続した都市空間が創出され，本市・向日市双方の住民にとって利便性が高く魅力と潤いあるエリアが形成されている。
- 大枝・大原野地域では，既存集落の住環境や生活環境がより充実するとともに，文化的・地理的特性をいかした産業などの振興により，移住・定住が促進され，市域全体の潤いと豊かさにつながっている。

MAP ①

MAP ②



主な地域のまちづくり方針等

- ◎ A 京都市山ノ内浄水場跡地活用方針
B 洛西ニュータウンアクションプログラム

※「◎」は、地域まちづくり構想に位置付けている地域
※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

- C 西京区・洛西地域の新たな活性化ビジョン
D 大原野「地域ブランド」戦略

- 広域拠点エリア (外周部分のみ表示)
- 地域中核拠点エリア
- 日常生活エリア
- ものづくり産業集積エリア
- 緑豊かなエリア
- ① 地域中核拠点エリアの将来像
- 1 ポテンシャルの高い主な個別地域の将来像
- 主な地域のまちづくり方針等

- 都市軸
- 広域連携軸
- 地域間をつなぐ新規軸
- 主な活用検討地
- 団地再生事業中の市営住宅

- 行政区界
- 市域界
- 駅
- 鉄道網 (市営地下鉄)
- 鉄道網 (JR線)
- 鉄道網 (新幹線)
- 鉄道網 (私鉄)
- 自動車専用道路
- インターチェンジ
- 主な幹線道路

地域のまちづくりの推進

地域まちづくり構想

- ・多様な主体による円滑なまちづくりの推進
- ・様々な変化に対応するまちづくりの推進
- ・より多くの市民が関心を持つことによるまちづくりの推進

個性豊かで魅力的な地域でのまちづくりを円滑に進めていくために、住民・事業者・行政をはじめとした地域の多様な主体の共汗（パートナーシップ）が重要です。そこで、地域が本マスタープランの都市計画の方針に沿って検討した、地域の「将来像」と「まちづくりの方針」について、行政が都市計画審議会に報告したうえで、都市計画マスタープランの「地域まちづくり構想」として策定します。

この地域まちづくり構想の早期実現に向けて行われるまちづくりを、都市計画として積極的に支援していきます。

地域まちづくり構想を策定する地域

多様な主体の共汗（パートナーシップ）によりつくられた地域の「将来像」を持ち、都市計画の支援などによって、まちづくりを推進していく地域（範囲）のことをいいます。

地域の大きさは、「将来像」や「まちづくりの方針」を共有する範囲であり、様々なものが考えられます。

学術文化・交流・創造ゾーン

文化をいかした地域・住民レベルのまちづくりの推進

千年を超えて、先人たちの知恵と挑戦により、幾度となく大きな危機を乗り越えてきた京都のまちは、歴史や文化、観光資源などが市域の隅々まで存在し、特色ある多様な地域がネットワークしており、従来の枠組みを超えた新たなまちづくりが市内各地で生まれるポテンシャルを秘めています。

これからも京都が京都であり続けるためには、こうした地域・住民レベルの小さな取組やニーズを早い段階から拾い上げ、地域に根差した文化として育んでいくことが重要です。

そこで、市内全域を対象として「学術文化・交流・創造ゾーン」の形成を図り、京都ならではの持続可能な都市の構築に向け、迅速かつ効果的な施策の展開につなげることを検討します。

- ◆ 多様な人々の交流や技術の融合を通じて、歴史、文化、大学、伝統・先端産業といった京都ならではの資源を活用しながら、新たな魅力や価値の創造を目指すために必要な施設の充実などを図ります。
- ◆ 各地域のポテンシャルを最大限引き出せるよう、都市計画手法を含めたあらゆる関係施策との連携を強めて積極的に支援を行い、まちづくりの新たな担い手の呼び込みなどにつなげます。





京都市都市計画マスタープラン 概要版

発行: 令和3(2021)年9月

京都市都市計画局都市企画部都市計画課

住所: 〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

電話: 075-222-3505 FAX: 075-222-3472

京都市都市計画マスタープラン

検索



京都市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。
京都市印刷物第033136号